

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

教育いちかわ

市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

- 子どもの姿** 自分や他人を大切に、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる
- 家庭・学校・地域の姿** 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する
- 市川の教育の姿** 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-0023
市川市南八幡1-17-15
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

平成29年度 教育行政運営方針

新年度の教育行政運営方針は、教育委員会のWebサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。【教育政策課】

2月15日に開会した2月市議会定例会において、田中庸恵教育長が新年度の教育行政運営方針を表明しましたので、その概要をお伝えします。

市川市では、これまでも「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」を基本理念として掲げ、その具現化に取り組んできました。

平成28年度には、市川市総合教育会議において、新年度における教育の振興を図るための重点施策について市長と協議を行うとともに、英語教育や道徳教育といった新たな教育課題について意見交換を行いました。今後も市長と教育政策の方向性

を共有しながら、「つなぐ教育」を踏襲した「市川市教育振興大綱」に掲げる教育の目標の実現に向け、教育行政の運営に努めると述べ、「新年度における教育行政の運営に向けた基本方針」と「基本方針に基づき取り組む新年度の重要な施策」を明らかにしました。



市川の教育に 貢献

◆市川市教育功労者

地方教育行政功労者表彰は、地方教育行政の充実発展に尽力された方々を、教育功労者表彰は、教育・学術または文化の振興などに関し、特に功績が顕著であった個人及び団体を表彰するものです。

氏名	役職
篠崎 道成	市川市立八幡小学校 校長
石原 孝幸	市川市立鬼高小学校 校長
小川 敏正	市川市立新井小学校 校長
猪狩 淑子	市川市立大洲小学校 教頭
永井 節子	前市川市立蘇和田の丘支援学校 教頭
中村 忠	市川市立宮久保小学校 事務長
石井 ゆかり	市川市立北方小学校 教諭
田中 安茂	市川市立第五中学校 教諭
伊藤 孝敏	元市川市立高谷中学校 教諭
吉野 信行	市川市立大和田小学校 学校医
鈴木 甫	前市川市立百合台小学校 学校医
関本 志貴	市川市立稲越小学校 学校歯科医
数田 優子	市川市立大洲小学校 学校薬剤師

市川市立第一中学校	市川市立第一小学校	市川市立立野小学校	市川市立大洲中学校	市川市立第八中学校	市川市立第二中学校	市川市立第一中学校	市川市教育委員会	千葉県教育委員会(千葉県教育委員会)	市川市教育委員会(文部科学省)
校長 金近 子	校長 藤 利	校長 石 欣	校長 瀬 次	校長 嶋 章	校長 鍋 誠	校長 村 敏	教育長 田 庸	教育長 田 庸	教育長 田 庸
薬剤師 加 典	薬剤師 大 一	薬剤師 高 弥	薬剤師 中 弥	薬剤師 高 弥	薬剤師 中 弥	薬剤師 高 弥	教育長 田 庸	教育長 田 庸	教育長 田 庸



教育行政運営の基本方針

- 新規事業に係る施策の充実
教育振興基本計画に基づく新規事業に係る施策の充実に努めます。
- 点検及び評価の結果に基づく施策の改善
毎年実施する教育に関する事務の点検・評価の結果に基づき、施策の改善を図ります。
- 新たな教育課題等への対応
教育改革への対応など新たな教育課題は、積極的に本市の実態に即した対応を図ります。

重要な施策

- 「校内塾・まなびくらぶ」の充実
- 小中一貫教育の推進
- 市川版中高一貫教育の推進
- 教職員が子どもと向き合う時間の拡大
- 子どもや保護者を支援する体制の充実 等
- 道徳教育の推進
- 英語教育の早期化への対応
- 家庭・学校・地域の連携施策の再構築 等

コラム 国の制度改革と市川教育⑥

～通級指導担当教員の基礎定数化と市川市の取組～

昨年末に示された国の平成29年度予算案に、教職員定数の改善として「通級指導担当教員の基礎定数化」が盛り込まれました。「教職員定数とは?」「基礎定数化とは?」「通級指導とは?」など前提となる仕組みの解説も併せて、国の動きや市川の取組を紹介します。

◆教職員給与費の負担の仕組み

「教職員定数」の説明の前に、まず、学校の先生の給料は誰がどのように負担しているのかを説明します。公立小中学校等の教職員の給与は、本来、設置者である市町村が負担するのが原則ですが、比較的財政が安定している都道府県の負担とすることで、義務教育の円滑な実施が図られています。また、全国的な義務教育の機会均等と教育水準の維持向上を図るため、都道府県が負担した教職員給与費の3分の1を国が負担しており、全国どの地域において

も公立小学校等に必要の教職員を安定的に確保することができています。市町村が財政破綻を起こしても学校が休業することはない、ということです。

◆教職員定数の仕組み

都道府県が独自の判断で教職員を配置し、国がその給与費の3分の1を負担すると、都道府県間の不均衡が生じるため、国は、全国同一のルールで学校に置くべき教職員の総数(教職員定数)を定め、その数に見合う給与費を負担しています。この「教職員定数」には、学級数や児童生徒数等に応じて自動的に算定される『基礎定数』(校長、教頭、学級担任、教科担任など)と、少人数指導など学力向上への取組や発達障害のある子供への対応など特別な事情に応じて予算の範囲内で加えられる『加配定数』(少人数指導や通級指導担当教員など)の大きく2種類に分けられ、実際に各学校に教職員を配置する際の目安となります。

◆通級指導

通級指導とは、通常の学級に在籍している比較的軽度の発達障害(言語障害、自閉症、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)等)がある子供に対して、週数時間、障害の状態を改善・克服するための自立活動や各教科の補充指導等の個別指導を行うものです。

通級指導担当教員の基礎定数化

国は、次期学習指導要領や複雑困難化する教育課題に対応できるようにするため、今後10年間で計画的に教職員定数を充実することとし、その初年度分を平成29年度予算案に盛り込みました。この計画では、通級指導を担当する教員の定数をこれまでの加配方式から、通級指導を必要とする発達障害のある子供の数に応じて算定する「基礎定数」とすることとしています。これが実現すれば、予算上の制約を受けず、学校のニーズに応じて必要な通級指導担当教員が配置されやすくなります。

市川市の取組

市川市では、本市の特別支援教育の現状と課題、今後の方向性と具体的な取組を示す「市川市特別支援教育推進計画」を策定しています。今年度末で第1期計画が終了することから、現在、来年度からの第2期計画の策定に着手しているところですが、このうち、「通級指導」については、先述の国の動きを踏まえ、

- 通級指導教室の計画的な設置
- 中学校ブロック内の協力体制の整備
- 通級指導担当教員の育成と専門性の向上

などを計画に盛り込み、通級指導を必要とする子供への対応を強化したいと考えています。

市川市としては、すべての子供たちの可能性を広げ、生き生きと活躍できる共生社会の実現を目指し、今後も着実に特別支援教育を推進してまいります。

【教育次長 松下大海】



八中ブロック受賞 文部科学大臣表彰

「地域学校協働活動」推進

市川市立第八中学校ブロック(第八中、平田小、鶴指小、大和田小)では、ブロック内の学校支援コーディネーターがお互いに協力し、多種多様な学校支援活動に取り組んできました。市川市での「学校支援コーディネーター」配置に関して、モデル校となり研究を深めてきました。この度、永年の功績が称えられ、文部科学大臣表彰の受賞となりました。

教育長への報告会

表彰式後、第八中学校ブロックの各学校長と学校支援コーディネーターにお集まりいただき、田中庸恵教育長への報告会を行いました。

教育長からは、永年にわたる功績に対して労いのお言葉を頂戴しました。大嶋第八中学校長から表彰式の様子について、コーディネーターの方々からは日頃の活動

についてお話し、和やかな雰囲気で行うことができました。

地域のお陰で受賞!

この賞は、第八中学校ブロックの“学校を支援する地域力”に対する表彰です。地域の皆様が様々な形で『子供たちのために』できることを実践し、学校を応援した功績が称えられたものです。

教育委員会としても、市川市の“地域と学校の連携推進”に更なる追い風を得たように感じています。市川市の地域の教育力の高さが国に認められたということでしょう。学校地域連携推進事業である『コミュニティサポート』『学校支援コーディネーター』、平成29年度から数ブロックでモデル事業を展開する『コミュニティ・スクール』が、さらに発展充実していくことを願っています。

今後も地域社会全体で子供の成長に関わり、未来の日本を担う次世代を育てていきましょう。

『地域とともにある学校』を、これからも推進してまいります。

【社会教育課】



学習支援クラブ

地域と学校が一体となり子供たちを育む「学習支援クラブ」。今回は、地域の歴史や伝統文化を効果的に取り入れた、市川市立新浜小学校の取組を紹介し

ます。同校では、4年生の総合的な学習の時間の中で、湊新田自治会の方々講師となり、7月に「笹団子作り」を行っています。地域にある「胡祿神社」の祭りで参拝者に配られる笹団子を実際に作ります。江戸時代から長く受け継がれてきた地域の祭りの歴史や伝統を肌で感じ取ってほしいとの願いからこの学習が始まり、今年で4年目を

迎えました。

子供たちは、自治会長のお話から、「地域の多くの人の手によって、この祭りが400年以上大切に受け継がれてきたこと」「その間、後継者の確保など、様々な苦労があったこと」などを学びました。そして、実際に笹団子作りを体験することで、祭りに携わる人々の地域への思いを実感していました。子供たちからは、「伝統を守っていくことの大切さが分かった」「これからは、祭りで遊ぶだけでなく、支える側のお手伝いもしていきたい」などの声が聞かれました。また、子供たちが作った笹団子が実際に祭りで参拝者に配られたことにより、自分たちもこの伝統を受け継ぐ地域の一員であるという思いが、さらに強くなりました。

このように学習支援クラブは、地域と学校が一体となり、子供たちの豊かな心を育む魅力的な授業づくりを支援しています。

【指導課】



平田史郎氏 藍綬褒章受章

平成27年度より市川市教育委員としてご活躍されている平田史郎氏(学校法人平田学園理事長・国府台女子学院学院長)が、平成28年秋の褒章において、長年にわたる教育の振興と発展に貢献した功績により「藍綬褒章」を受章されました。



教育委員交流会

教育委員会では、子供たちや保護者、教職員の意向を把握し、基本計画の改定に反映させるため、教育委員と子供たちや保護者、教職員との交流会を行っています。今年度は、9月から2月にかけて15校で実施しました。

国分小 11/4

五十嵐委員と松下教育次長が、授業参観後、4年生から6年生の代表委員と給食交流を行い、子供たちと楽しく歓談されました。「授業に熱心に取り組む、落ち着いた子供たちの様子」に感心されていました。



第八中 11/24

平田信江委員が、生徒会本部役員と「創立50周年記念のマスコットキャラクター制作企画」について意見交換されました。「9月の改選で選出された本部役員にとって、今回が初の活動でしたが、よりよい学校にしようという熱い思い」が感じられました。

北方小 11/25

平田信江委員と松下教育次長が、6年生学年合同の道徳の授業を参観されました。「自分の考えをグループで交流し全体で発表する中で、考えを広げたり深めたりする子供たちの姿」に感心されていました。



大柏小 12/15

五十嵐委員が6年生の学年集会を参観されました。子供が司会進行し、委員会・部活紹介をグループでした後に、全員で歌を2曲発表しました。「堂々とした紹介と素晴らしい歌声に感動しました。その力を、後輩に受け継いでください」とお話をされました。

国府台小 1/18

平田信江委員と平田史郎委員が、6年生の計画委員と「卒業に向けて」をテーマに交流されました。学校生活の課題とその解決方法について話し合い、「みんなが思いやりをもって行動することが大切」との感想を述べられました。



稲越小 1/19

田中教育長・五十嵐委員が、6年生の縦割り活動について子供たちからの発表を参観されました。交流後、「少人数を活かした活動であるとともに、リーダーとしての集大成であるといえます。活動を通して、6年生に学びと育ちの連続性がみとれます」と感想を述べられました。

第五中 2/9

小林委員・平田信江委員が、生徒会役員と交流されました。生徒会が制作した動画の学校紹介を見て、その後、生徒会が分析した五中の良い所と今後取り組むべき課題についての発表を聞かれました。「恵まれた環境を活用して3年間を楽しんでください」とお話をされました。



千葉県特別支援学校作品展

～ちば特別支援教育フェア2016～



柏市にあるさわやかちば県民プラザにおいて、「千葉県特別支援学校作品展」が、平成28年12月7日(水)から14日(水)まで開催されました。この作品展は、平成20年度から始まり、今年で9回目となります。東葛飾・葛南地区の県立・市立の特別支援学校16校の子供たちの作品が展示されました。市川市

は、須和田の丘支援学校、特別支援学校市川大野高等学園と市川特別支援学校が参加しました。各地域からの来場者も多く、作品や展示資料を通して特別支援学校、特別支援教育に関して、広く県民の皆さまに知っていただく機会となりました。さわやかちば県民プラザは県の生涯学習センターとして生涯学習の推進はもとより、これからも子供たちの学びを支援してまいります。

【教育センター】



校内塾・まなびくらぶ

「校内塾・まなびくらぶ」は、市内小・中・義務教育学校全校で取り組まれ、今年度で3年目となりました。指導者であるサポーターの教職経験者や地域の支援者、将来教職を目指す大学生の支援のもと、放課後の子供の「まなびの場」が豊かに広がっています。希望者を対象とし、学校によって実施学年も様々で、いろいろな取組があります。

その中の一例として、今回は国分小学校の取組をご紹介します。

国分小学校では、はじめの5分間に子供たちの集中力を高めるため、50ます計算に取り組んでいます。子供たちの表情は真剣です。その後は、サポーターが作成したオリジナルワークシートでそれぞれの理解に合わせて学習が行われます。サポーターが担任と情報交換をすることで、一人一人のつまづきを見極めた適切な支

援が可能となっ
ています。その
ため、どの子
も安心して学
習に取り組む
ことができます。

今後も、「校内塾・まなびくらぶ」は、子供たちの学びを支援してまいります。【指導課】



北方小学校屋内運動場建替え

より安全性の高い学校施設の耐震化進捗率

100%

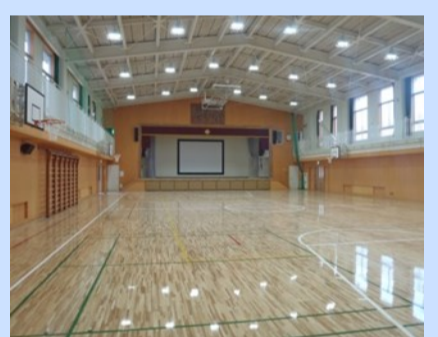
学校施設は、子供たちが日々学び生活する場であり、安全・安心で快適な学習環境を実現するため、また、災害時の地域避難拠点に指定されている観点からも計画的な学校施設の耐震化対策等に取り組む必要があります。

そこで、学校施設の耐震化対策を、平成27年度末までに全校において、文部科学省が示す、より安全性の高い耐震基準1.5倍、7以上を満たす耐震化を進めた結果、平成28年3月末に最後の1棟となる北方小学校屋内運動場建替えが完成したことで、耐震化率100%を達成しました。

北方小学校では、平成28年度には外構工事及び既存屋内運動場の取り壊し工事を行い、12月には校庭整備工事が完成しま

した。この屋内運動場は、耐震性能の確保と大震災時の避難場所としての活動を踏まえ、防災機能の充実、バリアフリー化など災害時の避難・救助活動が円滑に行える施設としました。

また、地球温暖化等の環境問題に対応するため、環境負荷を低減させる設計・建設を、LED化した省エネルギー・省資源型の施設づくりなどを行いました。



今後も安全・安心で快適な学校施設を目指してまいります。【教育施設課】

塩浜学園校舎等基本構想

義務教育の9年間をひとつの大きなくりとして捉え直し、発達段階にあわせた柔軟な教育活動を行うことを目的として、塩浜学園は平成27年度に小中一貫校として開校し、本年度からは県内唯一の義務教育学校へと移行しました。

塩浜学園の子供たちは現在、1年生～4年生と5年生～9年生に分かれて、塩浜小学校・中学校の校舎を使用していますが、開校当初からの方針である施設の一体化整備を行うため、本年度、外部事業者への委託により、「塩浜学園校舎等基本構想」の策定を行いました。これは、中一ギャップの解消や学び直しの機会の充実など、小中一貫教育の実効性を高める教育環境を整備することを目的としたものです。

◎「基本構想」の主な内容

○整備方針

- ・小中一貫校として必要な機能に加え、義務教育学校の教育効果をより高める整備を目指す。
- ・児童生徒に日常的に必要な施設整備を優先する。
- ・整備中の児童生徒の教育環境に配慮する。



○整備内容

- (1) 校舎 新築 延床面積 約7,300㎡
 - ・現況及び将来推計の児童生徒数を基に、普通教室数は計12とします。
 - ・多目的に活用可能な異学年交流スペースの設置など、義務教育学校としての特色の創出に努めます。
- (2) 屋内運動場 新築 延床面積 約2,000㎡
 - ・前期課程と後期課程の児童生徒が同時に使用できる規模とします。
- (3) 給食室 改修
 - ・一部修繕によって使用可能なため、継続使用とします。
- (4) その他の既存施設
 - ・新校舎、屋内運動場の完成後に取り壊しを行います。

「基本構想」の内容に基づき、今年度中に設計委託を開始する予定です。今後の予定としては、平成30年度に工事を開始し、平成32年度中の新校舎及び屋内運動場の供用開始を目指しています。

【教育政策課】

教育実践記録論文 授賞決定!

平成28年度教育実践記録論文表彰式・発表会が2月3日(金)に行われました。今年度は、一般部門に17点、フレッシュ部門に11点、合計28点の応募がありました。内容も、各教科・道徳・特別支援教育・学級経営など多岐にわたりました。どの論文からも、子供たちに自ら学ぶ力をつけていきたいという思いが伝わってきました。実践をまとめて形に残していくことは自分自身の力に磨きをかけることにもつながっていきます。多くの応募の中から受賞された皆様おめでとうございます。来年度も多くの応募をお待ちしています。【教育センター】



教育実践記録論文は、教育実践をまとめることで教職員の自己啓発を促すことを目的に昭和54年度に始まり、今年度で38回目です。

「一般部門」

※同じ賞については学校番号順に記載してあります。

賞	学校名	氏名	職	分野	テーマ
最優秀	行徳小	掛水 裕斗	教諭	総合的な学習の時間	人と関わり合う総合的な学習の時間を目指して～探究的な学習を通して、児童の主体的な学びを促す～
優秀	宮田小	青木 利雄	教諭	道徳	ともに語り合い、学び合い、考え抜く道徳の時間をめざして～道徳科へのチャレンジ～
優良	行徳小	深瀬 里美	教諭	総合的な学習の時間	自己肯定感を高める総合的な学習の時間の実践「世界の果てまで和食を広めよう」～5・3和食守り隊～
優良	妙典小	齊藤 里奈	教諭	特別支援教育	肢体不自由特別支援学級のあり方～児童との関わりを通して～
優良	大洲中	萩原 智子	教諭	夜間学級	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業～夜間学級の実践を通して～
特別賞	行徳小	吉野 和雅	校長	学校経営	『ジャンボ!』～新米校長のアクティブ・マネジメント～
特別賞	大和田小	都築 茂	校長	保健体育	より安全な組体操を目指した取り組みと付随する教育効果

経験5年以下「フレッシュ部門」

※同じ賞については学校番号順に記載してあります。

賞	学校名	氏名	分野	テーマ
最優秀	行徳小	田邊 竜也	国語	書く力を育てる授業の実践～国語科の学習を通して～
優秀	中山小	野島奈緒子	生活	探究心を高め、友達との関わりの中から思考を深める児童の育成～子どもが自ら問い、考える授業づくり～
優秀	行徳小	門倉 直己	学級経営	自分たちの良さを自覚し、一人ひとりが認め合える学級づくり～安心して通える学級を目指して～
優良	宮久保小	小野 貴仁	学級経営	これからの社会でよりよく生きるための基礎作り～ほめ言葉シャワーとクラス会議～
優良	妙典小	山本 祐平	情報教育	ICTの活用と児童の意欲

学校支援実践講座

学校支援実践講座とは、地域全体で「いじめ」の未然防止を図るため、千葉大学教育学部 藤川大祐教授の協力を得ながら進めている市川市独自の取組です。

「いじめ問題」に関心があり、子供たちや学校の力になりたいという市民の方を対象に人権講座【学校支援実践講座】を行い、講座の受講者は、「地域支援者」として、小・中・義務教育学校を訪問し、子供たちと自由に話し合うことができる交流会に臨んでいます。交流会は、子供たちが地域支援者の方々と「出会い・ふれあい・語り合い」を通して、「いじめ」の問題を考える機会です。

今年度は、9月から12月までの間に13校55学級の小・中学校において「交流会」が行わ



れました。「交流会」では、地域支援者が子供たち一人一人の自由な考え・意見を引き出してきていることから、子供たちは、多様な考え方があることに気づき、「相手の立場になって考える」「自分の行動の振り返り」など、2時間という短い時間ですが、考えを深め視野を広げる貴重な時間となっています。

【交流会後の感想】一部抜粋
〇人を傷つける言葉は一言で友達関係もなくなってしまうかもしれないと思いました。私もこれから気を付けたいと思います。いじめなどの差別的な行為をしている人を見かけたら止めたいと思います。《小5・女子》

〇地域の方々と話し合い、自分たち「仲間」の視点と地域の方々の「見守る」視点の両方から例題の問題点について考えることによって、新たな疑問、問題点などが次々と見つかり本当によい機会となりました。《中2・男子》 【社会教育課】

学校飼育動物管理指導

「ペットは私たちの生活にどのように役に立っているのだろうか？」獣医さんの投げかけに子供たちが答えます。「責任を持って世話をする大切さが学べるんじゃないかな」「飼い主の心の癒しになっているんじゃないかな」。

これは市川浦安獣医師会の先生方により実施されている「学校飼育動物管理指導」の一幕です。この日は小動物の飼育を通して、「命の大切さを学ぶ授業」が実施



されました。子供たちはペットと私たち人間とのかかわりに

ついて考えた後、ペットを飼う上で心がけなければいけない大切なことに気が付いていきます。

「うさぎや犬は苦しくてもがまんして病気ではないふりをするんだよ」獣医さんは、外敵から身を守るために弱みを見せない小動物の習性について説明します。「だからこそ飼い主はペットの様子を気をつけてあげないといけないね」この言葉に子供たちは大きくうなずきます。

「私たちは大切な命を預かっているということを忘れずにこれからも動物にやさしく接していきたい」これは授業を受けた子供の感想です。動物とのかかわりを通して、子供たちに思いやりや命を大切に育てる貴重な機会として、今後も実施してまいります。 【指導課】

～特別支援学級・通級指導教室開設のお知らせ～

教育委員会では、特別支援教育推進に係る環境整備のため、市内の小・中学校に自閉症・情緒の特別支援学級を4校設置しており、また、小・中学校の7校に通級指導教室を開設しています。

近年、個に応じた教育的支援のニーズの高まりにより、市内の設置バランスを考慮し、平成29年4月より中国分小学校に特別支援学級(自閉症・情緒)を、第五中学校に通級指導教室(自閉症・情緒)を開設することになりました。

開設に関するお問い合わせについては義務教育課に、入級に関するご相談は教育センターまでお申込みください。

〇義務教育課 TEL 047-383-9261 (月曜日～金曜日 午前9時～午後5時)

〇教育センター TEL 047-320-3336 (火曜日～土曜日 午前9時～午後5時) 【義務教育課】

縄文フェスティバル開催!



◎第17回縄文体験フェスティバルin堀之内貝塚

- 1 日時 平成29年3月19日(日) 午前10時～午後2時 ※雨天の場合、縮小開催
- 2 会場 考古・歴史博物館・堀之内貝塚公園ほか
- 3 内容 堀之内貝塚ガイドツアー・縄文食体験・火おこし体験・縄文造形教室・勾玉づくり・竹細工コーナー・外環道路関係出土品展示・模擬店・フリーマーケットなど、地域の人々が気軽に集い、参加できる催し物を多数用意しています。※都合により内容が変更になることがあります。
- 4 参加費 入場無料、申し込み不要(一部定員のあるもの、先着順や体験費が必要なものがあります。)
- 5 その他 当日は、駐車場が大変混雑しますので、公共機関のご利用をお願いします。
- 6 連絡先 考古博物館 担当:領塚(りょうづか) TEL047-373-2202 【考古博物館】

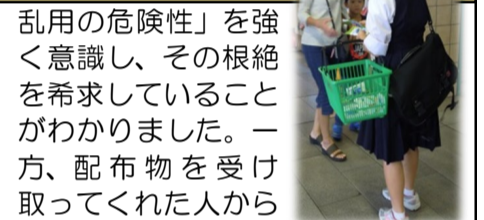
この「教育いちかわ」はWebサイトでもご覧いただけます。「教育いちかわ」で検索、または市川市教育委員会のWebサイトからアクセスしてください。(「教育いちかわ」のバックナンバーも掲載しています。)

薬物乱用防止キャンペーン 市川市少年センター

市内25の地域や学校関係団体及び行政機関で構成される「市川市明るい環境をつくる会推進会議」が主催するこのキャンペーンは、今年度で15回目を迎えました。10月8日(土)にコルトンプラザ、12日(水)に市川駅・行徳駅・本八幡駅、4つの会場でNPO法人や中学生・高校生等およそ250名のボランティアがリーフレット配布等の薬物乱用防止啓発活動を行いました。薬物がインターネット等により簡単に手の届く時代となり、薬物乱用の低年齢化が深刻な問題となっていますが、啓発活動後の感想を読むと、薬物は「自分や人々の笑顔を奪う物」「とても危険なことがキャンペーンを通してわかった」「多くの方が防止してくれたらいい」と、啓発活動を通じて「薬物



乱用の危険性」を強く意識し、その根絶を希求していることがわかりました。一方、配布物を受け取ってくれた人から「お疲れ様、薬物に気をつけるね」「ありがとう」「がんばって」と言葉をかけてもらい、人と触れ合ったこと、人のためになっていることに喜びを感じている生徒や「市川市の優しさに気づけた」と述べている生徒もいました。そして、薬物乱用防止に向けた今後の取組についてアイデアを生み出す姿も見られました。



生徒の言葉には、薬物乱用防止に限らず、人との関わりを大切にすることがより良い未来を築くことにつながっていくのだと、改めて教えられます。その第一歩が、互いに「愛のひとこえ」をかけ合い、明るい環境を作っていくことなのではないかと思えます。 【青少年育成課】

子供にかかわる相談は、ここでできます!

◆教育相談(教育センター)

予約TEL 047-320-3336 火～土(午前9時～午後5時)

対象: 3歳～中学校3年生

様々な悩みに関して専門的知識を持つ教育相談員が面接相談をしています。



◆ほっとホット訪問相談(教育センター)

TEL 047-320-3362 火～金(午後12時30分～午後5時)

対象: 小学校1年生～中学校3年生

不登校や子育てについての相談を電話でお受けしています。自宅等に出向いてお話を伺うこともできます。

◆少年相談(少年センター)

TEL 047-320-3340 月～金(午前9時～午後5時※木は午後7時)

メールアドレス youngnet@city.ichikawa.chiba.jp

対象: 小学校1年生～20歳未満

家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談(電話、メール相談あり)を受け付けています。

本人の相談も可能です。

【教育センター】